

平成 30 年 7 月豪雨を踏まえた高梁川本川沿川 4 市長との意見交換会

議事概要

日時：令和元年 12 月 26 日（木）11：00～12：00

場所：国土交通省中国地方整備局岡山河川事務所会議室

【市長から出された主なご意見】

- 日頃より河道掘削や樹木伐採などの対策や災害復旧、事前放流などの取り組みに感謝している。
- 現在進めている河道掘削、樹木伐採は引き続き続けて欲しい。
- 河川堤防などの総点検などを実施し脆弱な箇所の改修をしてほしい。
- 高梁川の越水で被災した地区の対策もしっかり検討してもらいたい。
- これらの取り組みは防災・減災、国土強靱化のための 3 箇年緊急対策で終わるのではなく、その後も続けてほしい。
- 新成羽川ダムなどの事前放流は全国に先駆けて実施したのは画期的であり、全国に広げるべきである。
- 雨量強度が強く、想定以上の降雨時の事前放流の基準などは変える必要があり、今後も検討を進めてほしい。
- ダム放流に伴う水位上昇予測について住民に情報提供できるシステムを構築してほしい。
- ダム事前放流時の河川の水位上昇について、実績を重ねて精度を高める必要がある。精度を高めることが住民の安心につながる。
- 水防法による指定の義務のない箇所（中小河川）で氾濫したので、そのような箇所でも浸水想定区域図を作成してほしい。
- 本川だけでなく支川にも河川監視カメラ・水位計を設置してほしい。また、市で河川監視カメラを設置しケーブルテレビで見られるようにしているので、県で今後設置する予定の河川監視カメラもできればケーブルテレビで見られるようにしてほしい。
- この意見交換会は継続し、出水期前後の 2 回など実施すべきである。また、会議の意見を踏まえた柔軟な対応を求める。

【河川管理者及びダム管理者からの主な発言】

- この意見交換会の継続については参加者全員の合意が得られたので、当面の間（年2回）継続していく。また、意見に対してはしっかり受け止めて対応していきたい。
- 浸水想定区域図については水防法以外の区間（中小河川）についても中小河川の水害リスク評価に関する技術検討会にて検討を進めているところである。
- ダムの放流による水位の予測については、県管理区間ではあるが、水系全体の課題として取り組んでいく。
- ハード対策、河道掘削や樹木伐採などについては、気候変動の影響も想定されることから、防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策以降も事前防災について取り組む必要がある。
- ハード対策については、激特事業等により、全区間の完成に向けてスピード感を持って取り組んでいく。
- 河道掘削や樹木伐採などについては、防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策等を活用して、引き続き、緊急性の高い箇所から取り組んでいく。
- 高梁川中上流の県管理区間については整備計画の見直しを進めており、国や沿川市と連携しつつ治水安全度の向上に努めていく。
- 河川監視カメラ情報の共有については、技術的な課題もあるので、住民への情報提供について、相談させてもらいたい。
- 利水ダムを含む全国の既存ダムの洪水調節機能強化に向けた国としての取組が始まっており、来年度出水期までに事前放流等の取組について検討していくことになっている。今後、そのガイドラインが示されるが、新成羽川ダムの事例も参考にしてみたい。
- 全国的にもダム運用の取組が進んでいくため、それに歩調を合わせつつ、地域の皆様のご理解を得られる範囲で引き続き運用・協力を進めていきたい。
- 事前放流は引き続き実施、検討をすすめる。雨量強度が強く、想定以上の降雨の場合もあり、現在の基準が固定のものであるとは考えていない。今後、事前放流の実績を重ねる中でより適切な基準へ更新していきたい。
- 事前放流による下流河川の水位上昇については、今年度実績データを得ることができた。引き続き、実績データを蓄積して精度向上に取り組みたい。
- 現行の事前放流の基準は十分検討したものであると考えている。今後ともより良いものとなるよう、柔軟に対応していきたい。